

平成25年度 那須塩原市工事成績評定結果概要

1. 件数

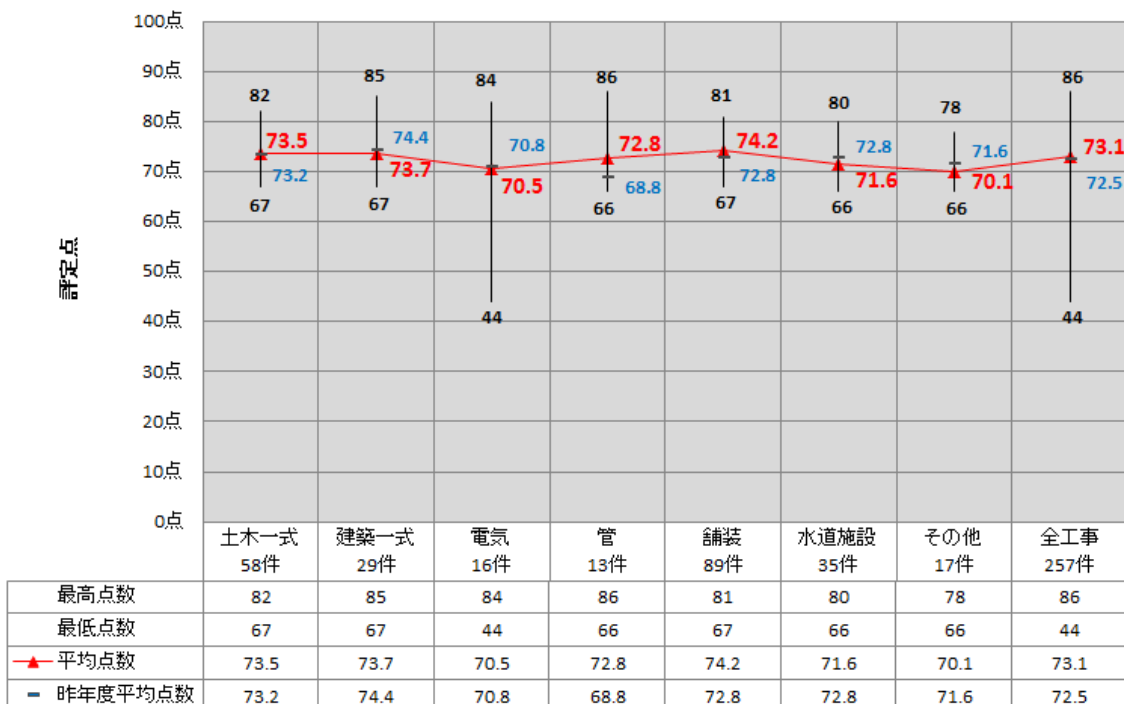
那須塩原市が発注した設計額130万円超えの建設工事で平成25年度（平成25年4月1日～平成26年3月31日）に契約検査課が完成検査をした257件の建設工事を対象とする。

工種別	件数	前年度件数	増減
土木一式工事	58	58	0
建築一式工事	29	17	12
電気工事	16	22	▲ 6
管工事	13	12	1
舗装工事	89	48	41
水道施設工事	35	50	▲ 15
その他工事	17	20	▲ 3
計	257	227	30

2. 評定点

平成25年度に検査実施した全工事の平均評定点は73.1点である（図1参照）。工種別に見てみると、管工事が前年度平均評定点を大きく上回り、それとは対照的に建築一式工事、電気工事、水道施設工事などが前年度の平均評定点を下回った。しかし、全体での平均評定点は若干ではあるが前年度を上回る結果となった。

図1. 工事成績評定結果（工種別）



3. 総合評価

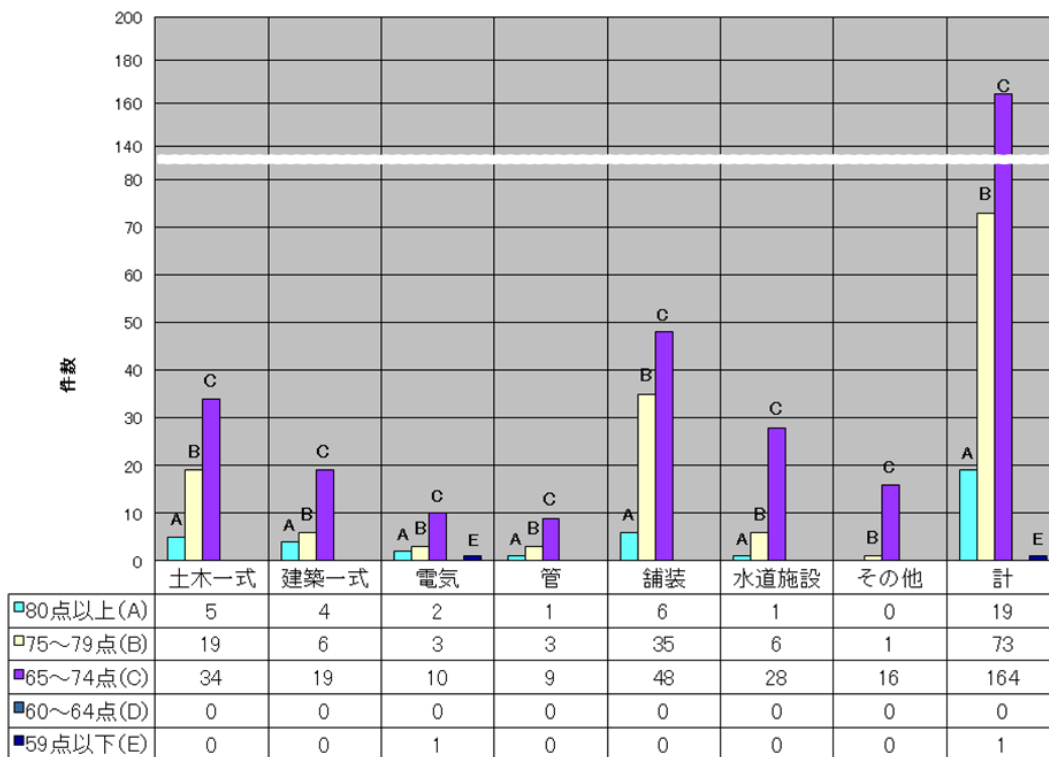
検査した工事を総合評価別に分類した場合のA、B、C、D、E工事の件数は、それぞれ19件、73件、164件、0件、1件である（図2参照）。

他の模範となる優秀な工事（80点以上：A）については、前年度は9件（4.0%）であったが、平成25年度は19件（7.4%）となり、件数及び割合ともに増加している。

また、標準的工事の中で優秀なもの（75～79点：B）の件数及び割合と合わせて考えると前年度の68件（30.0%）から92件（35.8%）と優秀な工事の割合は増加しており、評定点全体としては底上げが図られている。

一方、指名等に影響を及ぼす恐れのある工事（59点以下：E）は前年度の電気工事1件、舗装工事1件から電気工事1件と減少している。

図2. 工事成績評定結果（工種別総合評価）



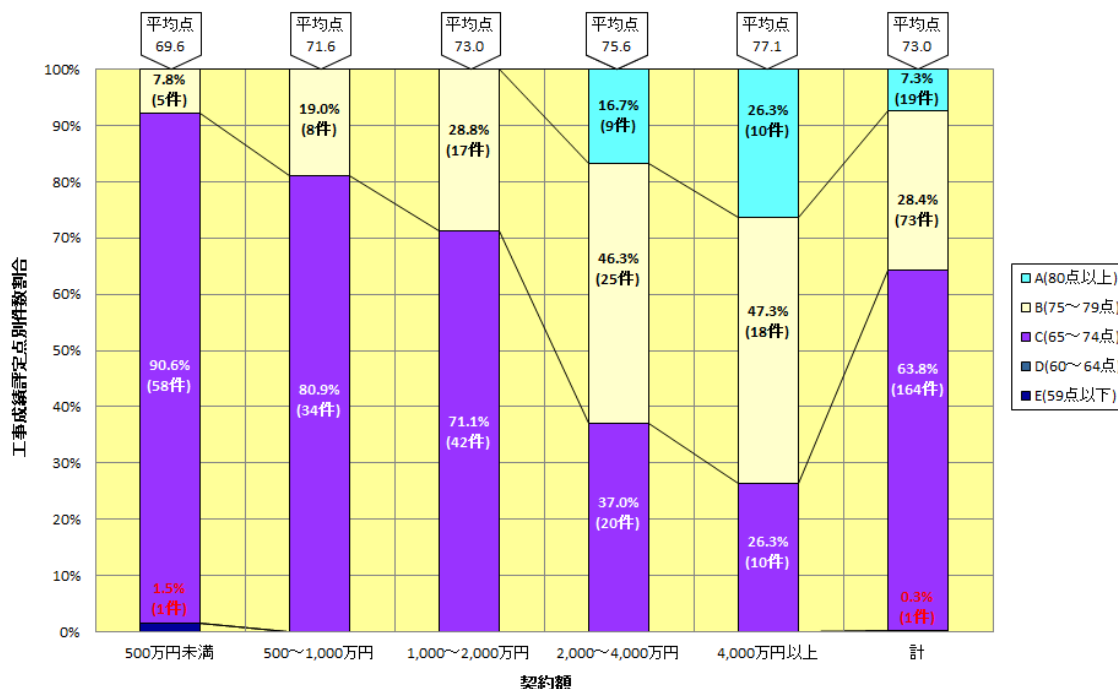
総合評価の標準

ランク	評定点の標準値	総合評価の標準	
A	80点以上	他の模範となる優秀な工事	
B	75～79点	標準的工事	Aランクではないが、標準的工事の中で優秀なもの
C	65～74点		標準的な工事
D	60～64点		Eランクではないが、今後改善すべき事項がある工事
E	59点以下	今後指名等に影響を及ぼす恐れのある工事	

4. 工事規模－工事成績評定点に関する分析

工事規模（契約額）と工事成績評定点の件数割合との関係を見ると、工事規模が大きくなるほど、75点以上の割合が高くなることが確認できる（図3参照）。

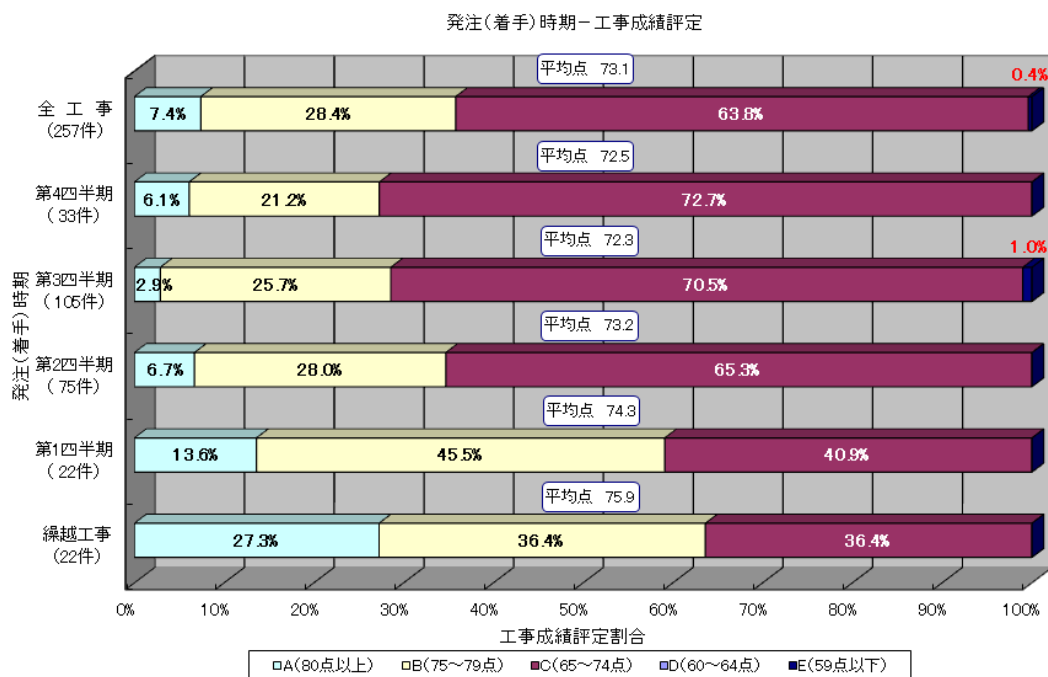
図3. 平成25年度建設工事 【工事規模（契約額）－工事成績評定点】件数割合



5. 発注時期－工事成績評定点に関する分析

発注（着手）時期と工事成績評定点の件数割合との関係を見ると、発注時期が早いほど75点以上の割合、特にAランク（80点以上）の割合が高くなっていることが確認できる（図4参照）。

図4. 平成25年度建設工事 【発注(着手)時期－工事成績評定点】件数割合



5. 現場代理人兼務－工事成績評定点に関する分析

現場代理人の現場常駐緩和については平成25年7月1日より請負代金額5,000万円未満工事まで対象を引き上げた。平成25年度の現場代理人兼務工事件数は、全検査件数257件中51件（約20%）であった。

工種別平均工事成績評定点を見てみると、ほぼ全ての工事において平均評定点より工事成績評定点が低い傾向である。（図5参照）

請負額別に見てみると、1000万円未満工事が29件（57%）と全体の半数以上を占めており、小規模な工事の方が代理人兼務工事が多い。また、平均点を見ても請負額が小さくなるにつれて低くなっている。（図6参照）

図5. 平成25年度 現場代理人兼務工事 【工種別件数－平均工事成績評定点】件数

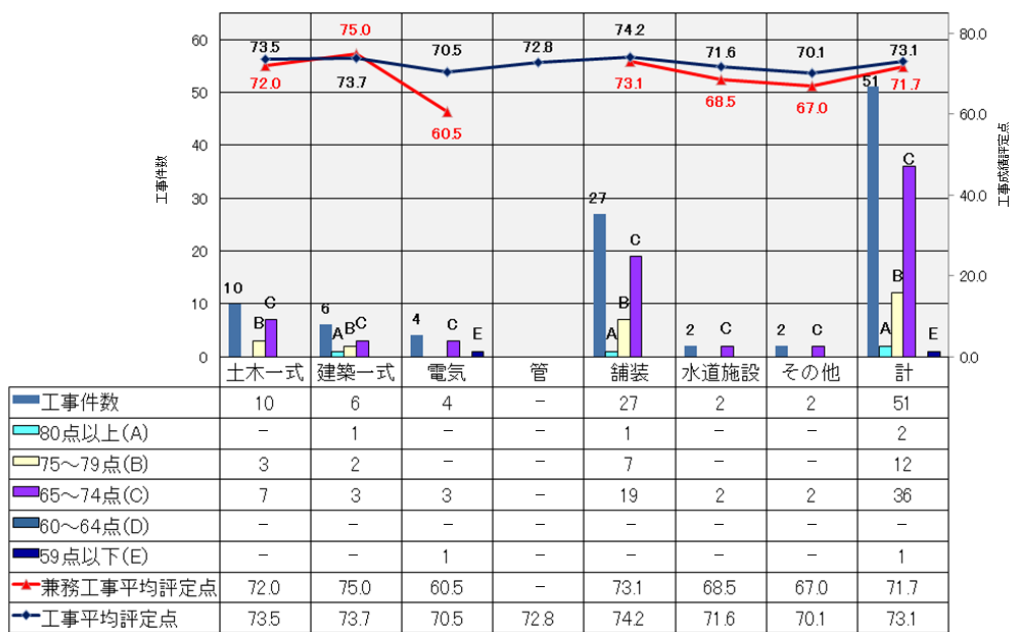


図6. 平成25年度 現場代理人兼務工事 【請負額－工種別割合】件数

